

令和４年度 第１回東郷町地域ケア推進会議：議事録

日時	令和４年５月２７日（金）１４時００分～１５時３０分
場所	東郷町役場２階 大会議室及び zoom
出席者	委員 ※敬称略、順不同 松浦誠司 医師（東名古屋東郷町医師会） 岡松猛 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部） 佐藤裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会） 福島美佐子 訪問看護師（東郷町訪問看護ステーション連絡協議会） 柳ゆかり 理学療法士（東郷町リハビリテーション連絡協議会） 近藤秀己 東郷町社会福祉協議会 逸見紀子 東郷町北部地域包括支援センター 荒川和枝 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑 制野司 有識者（学校法人柳城学院） 村井良則 有識者（東名古屋医師会医療介護総合研究センターやまびこ） 池田寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし） 小島通範 東郷町民生委員児童委員協議会 野々山清子 東郷町民生委員児童委員協議会 松枝博之 施設サービス関係（愛厚ホーム東郷苑） 松山陽二 居宅介護支援事業所（もみの木） 神脇和美 住民代表（第１号被保険者） 海老原由美 住民代表（第２号被保険者） 原口浩美 瀬戸保健所 健康支援課 森本美香 こども健康部 健康推進課
欠席者	朝倉隆行 居宅サービス関係（メドック東郷）
傍聴者	なし
事務局	福祉部長 高齢者支援課長（進行） 高齢者支援課職員 ６名
議題	１ あいさつ ２ 在宅医療・介護連携推進部会の部会委員の指名 ３ 報告事項 （１）令和３年度在宅医療・介護連携推進部会について （２）令和３年度地域支え合い協議体について （３）令和４年度新規（見直し）事業について ４ 議題 東郷町の地域課題について ５ その他 第９期高齢者福祉計画策定スケジュール（案）について
配布資料	次第

資料 1	令和 3 年度東郷町在宅医療・介護連携推進部会について
資料 2	令和 3 年度東郷町地域支え合い協議体の活動報告
資料 3	令和 4 年度新規（見直し）事業について
資料 4	東郷町の地域課題（令和 3 年度分）の検討
資料 5	第 9 期東郷町高齢者福祉計画策定スケジュール（案）

1 あいさつ

2 在宅医療・介護連携推進部会の部会委員の指名

事務局	委員長から委員の推薦をお願いする。
委員長	東郷町北部地域包括支援センターの逸見委員を指名する。
事務局	ご異議なしということで、逸見委員をお願いする。

3 報告事項

(1) 令和 3 年度在宅医療・介護連携推進部会について

事務局	資料説明。資料 1
委員長	事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問がないようなので、次に移る。

(2) 令和 3 年度地域支え合い協議体について

事務局	資料説明。資料 2
委員長	事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問がないようなので、次に移る。

(3) 令和 4 年度新規（見直し）事業について

事務局	資料説明。資料 3
委員長	事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問はあるか。
委員	電子連絡帳ビデオ会議システムは、入退院支援、電子連絡帳の患者に対して限定の支援になるか。
事務局	今回取得するライセンスは町のみになる。使用できる会議は町が主催のものに限るが、使ってみて必要性に応じてアカウント増加の検討を行う。
委員	現在会議では Zoom を利用しているが、併用をするのか。行う会議の内容によって Zoom と使い分けるのか。セキュリティーの強化が必要な会議については新しいシステムを使うということによろしいか。
事務局	電子@連絡帳は、個別の患者の情報をやりとりすることがメインとなる。今回の会議システムは、より個別性の高い担当者会議等での使用を想定している。
委員	栄養パトロールについて、見直しにより対象が健康不明層のみになったが、昨年度と今年度の対象者数はどの程度変化するか。
事務局	昨年度の対象者は 250 名。多くの方に関わることができたが、一方でコロナ禍もあり、訪問に時間がかかり丁寧に関わることができなかった。実態把握に重きを置き、今年度は健康不明層を対象として 100 名程度を想定。昨年度はアンケート

	トの結果で判断しようとしたが、紙のアンケート結果だけでは分からないこともあるため、アンケート回収訪問に時間をかけ、目視で確認することで重点的に拾えるよう見直しした。
委員	認知症高齢者の位置情報サービス助成制度について、10 年くらい前も似たサービスがあったような気がするが、どんな制度か。
事務局	過去の事業については不明点もあるが、今回の新規事業については、GPS の小型端末を高齢者が持参し、家族がアプリ等を使って端末の位置情報がわかるような仕組みで、その端末購入費用の助成。認知症高齢者がひとり歩きをした際等、早期発見につながる。
委員	全般的に事業の効果、実績、今後に向けて具体的なつながりが見えにくい。栄養パトロールは訪問で聞いたりするが、後になってからの情報が多かった。本当に予防につながったのか。認知症高齢者で GPS を使ってる人も多いと思うが、使ってから不具合が見つかる場合が多いので、どう使うか今後考えてもらいたい。また、栄養パトロールの効果を聞きたい。
事務局	昨年度の栄養パトロール事業の対象者を 250 名と設定したことにより、丁寧な対応に欠けてしまい反省している。効果としては、訪問して健康不明層の掘り起こしができたこと。例えば精神疾患で 20 年以上引きこもりの奥様を抱えているご主人は、今までどこに相談していいかわからなかった。栄養パトロールから、往診や精神の訪問看護につないだ。また、独居の方で家族は遠方におり、どこに SOS を出していいかわからない人を包括につなげた。栄養パトロールで訪問した方全てが支援を必要としている人ではなく、自分なりの健康法を持っている人も多かった。元気な人へはすぐに支援は必要ないが、何か困ったときに相談ができるよう包括のチラシを渡した。また、社会参加ポイントの紹介や、くらしの応援ガイドブックの情報を提供できた。
委員	栄養パトロールという名前だが、内容は健康相談か。地域に出向くことは良いことであるため、人手と内容をより良くしていただきたい。
委員	東郷町の栄養パトロール事業について、医師会のパネルディスカッションでも取り上げられた。常滑市、東郷ともう 1 か所が行っており、先進的にアウトリーチを行っていると言える。東郷の事業は、健診に行っていない人を対象に突撃訪問する。元気な人もいるが、どこにもつながっていない人を掘り起こすにはいい事業。はらぺこスパイスの奥村さんが行っている。アウトカムを求めるには予算が難しい。
委員長	他にご意見・ご質問がないようなので、次に移る。

4 議題

(1) 東郷町の地域課題について

事務局	資料説明。資料 4
委員長	事務局から説明を頂いた。地域課題リストから選ぶと、その他の方が多いということで、課題が少しずつ広域でより詳細になり、複合化しているのかもしれない

	い。その他についてご意見をいただきながら詰めていきたい。(1)本人の強みを生かした支援の必要性について。今後東郷町が力を入れて取り組んでいくべき項目についてまとめているので、ご意見いただきたい。
委員	理学療法士として強みを活かした支援を行っているが、やはり難しい。できること、得意なことに焦点を当てる。その先にあるものを、どの職種が行っていくのかということに関して、評価を誰がするか明確にしないといけないと感じた。できなくなって助けを求めるとサービスに目がいきがち。その人がどういうことが好きだったか、やる気になりそうなものに目を向けると、サービスを卒業し、地域に戻っていくことができるかと思う。
委員	資料の1番後ろの方のケースについて、まさに地域ケア会議で本人にできることを検討した。車に乗ることを拒否したため、外に出ることが嫌なら自宅に人を呼ぼうという話になった。お試しで人を家に呼んだ。そしたら、おしゃべりも好きで、お茶を入れることもでき、次につながった。この方は初期集中支援チームでも関わっており、これをきっかけに車に乗ってデイに行くことができた。
委員長	実践を行い、成果の話も出た。人を家に呼ぶことは負担やリスクもあるとは思いますが、成功例もあるようだ。
委員	資料の中で、できること、得意なことに焦点を当ててという考えは非常に良いことであるが、できなくなってしまったことに焦点をあてるのではなくという表現について、当ててはいけないのではなく、なぜできなくなったのかを深掘すると良い。本人の得意なことに焦点を当てることも大切であるが、できなくなったことを考えること自体は大切。両方を考えていく必要がある。
委員長	両方大切だと思う。続いて、(2)専門職の連携の必要性について、ご意見はあるか。
委員	専門職の相談連携について、東郷町の特性もあり、町内の資源に限りがある。精神分野専門の訪問看護や、居宅のケアマネジャーは町内がいっぱいと近隣にお願いする。それを踏まえたうえでどう連携するか、町内はもちろん、他市の事業所とも協力するなら、より丁寧に事業所とかかわる必要がある。顔の見える関係づくりのために研修会にさそったり、電子@連絡帳を使ったり、包括に来たときに話したりして連携している。
委員長	情報共有は大切。ハード面や資源の限界という問題について、事務局で何か取り組んでいることはあるか。
事務局	前回、第8期計画を策定する際にアンケートで事業所やケアマネジャーから意見をもらった。しかし、居宅介護支援事業所の誘致は難しい状況。また、第7期計画では、認知症対応型のデイサービスを2か所に増やすという計画だったが、増やすことができず、第8期計画でも引き続き増やす予定となっている。高齢者人口の増加がずっと続くということも言えず、アプローチが難しく、事務局も困っている状況。
委員	人手不足の問題は承知しているが、裏を返せば、いろんな市の人とネットワークが作れるというメリットもある。

委員長	少し知恵を出しながら対策を立てていけたらと思う。続いて、(3)精神疾患ある支援について、ご意見はあるか。
委員	高齢者の介護認定申請の場面で、支援が必要であることが浮き彫りになるはよく聞く話。本人が高齢になって発覚する心の病気もある。本人ではなく、親族の側に問題があるケースもある。情報をキャッチした窓口が、誰が何に困っているかを丁寧に聞き、保健所や、町の窓口に、介護担当だけでなく事例共有しながら何ができるか考えていくことになると思っている。支援に入ったからと言って、心の問題はすぐに解決することが難しい。何に1番困っているのか、本人の訴えと、本当に改善しなければいけないことが違うこともある。関わる人たちで情報を共有し、できることをやりながら、チャンスを待って医療につなげる必要があるケースもある。無理に連れていくことはできない。お互いにチャンスを共有しながら一緒に関わっていきたい。
委員	支援体制の脆弱性というところでいくと、先ほど話のあった8050問題などは、誰が主体になってケースに寄り添うか明確になりにくい。(2)に戻るが、専門特化しているがゆえに、どこがケースを持つかという話になりがち。縦割りの部分に対してどのように取り組むか、重層的支援について、地域で働く専門職は期待している。各部署が協同しながら、複合的問題に飛び込んでいくのが包括の職員だけでは太刀打ちできなくなると思われるため、垣根を低くすることが重層的支援の考えだと思う。まだ重層的支援という言葉だけで、わからないこともあると思うので、かけはしで勉強会を開催する予定。
委員長	実際に支援はスタートしている。包括の中でも大変な案件で、なかなか成功例はないかもしれないが、その認識で動いているということを活かしていただければ良いと思う。続いて、(4)介護者の負担軽減の支援について。地域課題リストに入っていないが、大きな問題の1つだと思う。
委員	男性介護者のつどいについて、カフェ東郷庵を第2第4日曜日に開催しており、その認知症カフェには男性介護者が来てくれるようになった。認知症の妻を持つ夫がカフェに来る。愚痴を言ったり、こうすると楽だったよというアイデアの出し合いをしたり、この前も、妻が入院したことを報告に来てくれた人もいる。男性の介護者のほうが、家事ができなかったり、女性用下着の購入なども大変な様子。カフェでもフォローしている。
委員	認知症カフェに男性介護者が集まることができて良かったと思う。第5期、第6期計画のとき、介護者に介護負担の軽減についてアンケートとった。時間がなく、ストレス解消のためにどこかへ行ったりしたい希望が多いのかと思ったら、精神的負担軽減を望む人が多かった。話を聞いてもらいたいということ。介護してることを認めてあげる必要がある。介護者はなかなか話を聞いてもらえなかったり、介護を認めてもらえないことが多い。認知症カフェは、専門職がいて、本人も家族もいる。そこで、自分の介護を認めてもらえるところが良いと思う。精神的な負担軽減ができる場所が増えると良い。
委員長	話を聞く、孤独感をなくすのが大切。自分の母親が介護をしてノイローゼにな

	ってしまった際に、息子が介護を手伝ってくれたことではなく、大変さを分かってもらえたことが嬉しかったと言っていた。介護負担の話は、その他という小さな話ではない。そういったことがきっかけで介護職になる人も多い。まずは精神的負担軽減がきっかけになれば良いと思う。では、(5)家族関係の変化による支援方法について、ご意見はあるか。
委員	家族関係の複雑化ということで、高齢の方が小学生の面倒をみたり、同じ家に障がいを持つ方が複数いたり、同じ家庭内でも会うのは月1回だったりすると、問題が複雑化する特徴がある。リスクが高くなると感じる。包括だけでは対応は難しい。障がいの相談支援センターや、子どもであれば子育て応援課など、分野をまたがると関わる機関が多くなる。そういう問題であればあるほど縦割りでは支援できない。重層的に支援をしたい。町の勉強会があると参加するが、県でも重層的の支援に取り組む市町村は手上げ方式になっているので、町でも相談部門をどう組むか課題があると感じた。
委員長	重層的の支援について、事務局では何か対策、検討をしているか。
事務局	福祉課が担当で一昨年くらいから取り組み始めたが、新たに組織を作るのか、連携なのかで議論が止まっている状態。関係部署が集まって勉強会を始めたが、行政も勉強をしながらで、足踏み状態。
委員長	志半ばということか。重要な問題であるので、行政でも対応していただきたいと思う。続いて、(6)地域のつながりがなかった人への支援について。これも重要なものとして、ご意見いただきたい。
委員	地域とのつながりがなかった人の事例を報告する。老人会で夫が活躍しており、妻は見かけたことがなかった。そういう夫の妻がパーキンソン病になり、家で倒れた。一人にしておけないということで、包括の世話になった。自分に何ができるか考えた時に、夫が疲れていたため、老人会に来るたびに話を聞いて、妻も連れてきなさいと誘っていたら、妻を連れて老人会へ来るようになった。介護者だけでなく、地域など他とのつながり持つために、集まりの場へ連れてきてくれると、笑ってありがとうと言って帰られる方もいる。そういった方法も役に立つと思う。
委員	自分はサロンを運営している。そういう人がいたら声をかけてたいと思う。しかし、声をかけたくても引っ越してきた人の情報がない。個人情報の問題もあると思うが、情報をもらえたら積極的に声かけしたいと思う。
委員長	この問題は、どうしても個人情報の話になる。地域で支え合うには、個人情報が問題になるようですが、声かけが大切であることは十分理解できる。この会議で出た意見を事務局で取りまとめていただけたら幸い。

5 その他

事務局	資料説明。資料5
委員長	事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問はあるか。今後地域課題を落とし込めるようにご協力いただきたい。

	遡って、その他意見がないようであれば、議題は以上とする。進行を事務局へ戻す。
事務局	いただいた意見を参考に進めたい。次回は８月２６日金曜日を予定している。本日はありがとうございました。

以上